
中外雑記

臨黄

震災物故者追善供養

●**南禅寺派** 兵庫県南部地震一周忌に当たり、大本山南禅寺は十七日午前五時四十分から、鐘楼において虎山秀禅宗務総長の導師で震災物故者の小祥忌追悼諷経を厳修する。一年前、大地震が起こった時間にあわせて鐘楼の大鐘を撞き、内局役員が出頭して諷経回向を執り行ない、震災関連死者六千余人のため追善供養する。

法華

17日に神戸で一周忌法要

●**日蓮宗** 十七日午後一時半から、神戸市立中央体育館（ＪＲ神戸駅から徒歩十分、地下鉄・大倉山駅から一分）で日蓮宗主催（兵庫県東部宗務所後援）による「阪神大震災物故者一周忌慰霊法要」を執り行なう。導師は奥邨正寛宗務総長で、小倉光雄庶務部長、地元・兵庫県東部宗務所の太塚泰詮所長（近畿教区長）、同じく同宗務所の野口泰信協議員会議長、地元選出の中井泰淳宗会議員（宗務院人権対策室長）の四人が副導師を勤める。すでに近畿教区ならびに兵庫県東部宗務所には、宗門檀信徒三千人の参列申し込みがあったそうだが、宗務院では特に一般の方の参列を望んでおり、これまでに地元・神戸新聞に折り込みチラシ十一万枚を入れて配るなど、僧俗を問わず、広く呼びかけを行なっている。また法要後には、藤崎一明京都府第二部宗務所長（日蓮宗常任布教師）による法話があり、閉会は午後四時頃になるもよう

神社界

“戎さん”やや参拝者減

●震災復興で大きく注目された兵庫県西宮市の西宮神社（吉井良隆宮司）の十日戎は、九、十、十一の三日間で八十二万人の人出で賑わった。今年は三日間、記録的な寒波に見舞われ、大雪で交通事情が悪化した影響もあって、参拝者の数は昨年約百十万人から二十八万人の減である約八十二万人となった。しかし寒さが和らいだ十一日には、残り福を求めた人々で境内は夜遅くまで参拝者で賑わい、二万本用意された一本三千円の大福笹もほとんど売りつくされ境内に並んだ吉兆店も福笹や熊手の手持ちが売りつくされるという盛況だった。人出が減少した割には、地震やオウム真理教に代表される不安な世相に影響されてか、人々の縁起物に託す思いが強く表われた。今年は美しく新装された本殿が西宮の震災復興のシンボルとして注目され、夜はライトアップが行なわれて生活の平安、商売の繁盛を願う人々を迎えた
